

陸上競技実施要領（知的障害の部）

1．競技規則

公益財団法人日本障害者スポーツ協会「全国障害者スポーツ大会競技規則集」及び本大会申合せ事項による。

2．招集

（１）選手の招集は次のとおりとする。

選手は、招集時刻までに現地に集合し、競技役員の点呼を受ける。点呼の際は、ユニフォームのナンバーカード（ゼッケン）等の確認を受ける。ただし、本人が他の競技に出場しているため、招集時刻に点呼を受けることができない場合は、代理人が代わって点呼を受け、その指示に従う。なお、その時点において競技が終了していた場合は棄権とみなす。

招集時刻は原則として、トラック・フィールド競技共に各組競技開始１５分前とする。ただしトラック種目のうち競技組数の多いものについては、待ち時間を少なくしたり、疲れを軽減するため、随時招集のための放送を入れる等の処置を行う。

リレー競技に出場するチームは、競技開始１時間前までにオーダー（走順）を本部に提出すること。

選手招集場所への移動は、競技の邪魔にならないようにトラックの外側を通行すること。

3 入退場

（１）競技場への入退場は、係の指示に従う。

（２）競技が終了した選手は、係員の指示により表彰所まで移動し、表彰を受ける。

4．競技方法

【トラック競技】

（１）スタート

スタートライン、またはその前方に手をつけてはならない。ただし、厳密ではない。

スタート姿勢は自由。

フライングを２回した場合は降着（最下位）とする。（極端なものを除いて適用しない。）

スターティングブロックは使用してもよい。

（２）インターフェアー

故意に他のコースに侵入し、他の競技者の妨害をした場合は降着（最下位）とする。

200m、400m のセパレートコースでは大きくコースを外れた場合は降着（最下位）とする。ただし、直線では他に影響しないときは有効とする。

選手に有利にならない限り、厳密に適用しない。

（３）セパレートコース

50m、100m、200m、400m、400mリレーはセパレートコースで行う。

（４）リレー

バトンゾーンを設け、ゾーン内での受け渡しを原則とする。

バトンを渡し終わった選手は他の選手に影響を与えないためにコース内に留まり、審判員の指示に従うこと。

【フィールド競技】

（１）立幅跳

選手は、両足で踏切をしなければならない。

試技開始時に選手の爪先は踏切線の後になければならない。

地面を離れる瞬間は、選手は両足踏切をしなければならない。

試技は連続２回としプログラム順に跳び、その最長距離で、順位を決める。

跳躍距離は、腕や手を含む身体の一部が、接地した位置を踏切線から計測する。

試合前の練習は１回とする。

（２）走幅跳

試技は２回とし、プログラム順に跳び、その最長距離で、順位を決める。

目印としての踏切板は設けるが、記録は実測とする。

試合前の練習は１回とする。

(3) 走高跳

片足で踏み切ること。

パスは原則として採用しない。

試合前の練習は 1 回とする。

バーの上げ方は、審判団において決定する。

(4) ソフトボール投

ソフトボールは 3 号球を使用する。

投球フォームを自由とする。

プログラム順に投げる。

試技は連続 2 回としプログラム順に投げ、その最長距離で、順位を決める。

試合前の練習は 1 回とする。

6 . その他

(1) 競技を行うときは、競技ができる服装を着用する。

(2) ナンバーカード (主催者が事前に配布する) は胸・背部の両面にしっかりと貼り付けること。

(3) スパイクシューズを使用してもよい、その場合はピンの長さが 7 mm 以下とする。

(4) 補装具の使用は可とする。

(5) 競技者は競技中、原則として助力を受けてはならない。ただし、特に介助を必要とする選手は申し出ること。

(6) 競技場内へは、競技役員、補助員、大会役員、選手及び付添者以外立ち入ることはできない。

(7) 大会当日、不明な点は競技本部に問い合わせること。